第３章　瀬戸内市の歴史文化の特徴

１．瀬戸内市の歴史文化の特徴

（１）職人の技と自然がつなぐ刀剣の歴史文化

岡山県内での製鉄の始まりは古く、古墳時代には行われてきました。

市内では平安時代末期から刀剣が吉井川周辺で生産されるようになり、中世になると、備前福岡の一文字派や、長船の長船派が起こり、刀剣産地として隆盛しました。長船派の系譜は、日本の刀工系譜の中で最も長く続きましたが、昭和初期に途絶えました。その後地元の強い熱意で新たな刀工が招かれ、昭和 20 年から作刀が始まり、現在まで継承されています。

長船地域で刀剣が盛んに作られた理由としては、東西を結ぶ陸運の山陽道と、南北を結ぶ水運の吉井川が交わる地点にあったことで、刀剣の生産に欠かせない原材料や商品の流通に優れていたことなどが挙げられます。

このように、社会条件と自然条件が、刀剣の生産の発展につながっていきました。

（２）営みと伝統が結ぶ焼物の歴史文化

本市では古代から現代に至るまで、様々な焼物が作られてきました。

古くは須恵器の生産地として知られ、古墳時代から平安時代末期にかけて寒風古窯跡群をはじめとする、中四国地方最大の須恵器窯跡群である邑久古窯跡群が操業されました。生産された須恵器の多くは、調(税)として都に納められ、宮中でも使われていました。平安時代後期以降、須恵器は備前市の伊部を中心に備前焼として発展したとされています。

近世には、岡山藩筆頭家老伊木家の主導で京焼の流れを汲んだ虫明焼が、邑久町虫明地区で作られるようになりました。何度も廃絶の危機を乗り越え、幕末以降、茶道具を中心に人気を高めていきました。現在も市内では備前焼、虫明焼等の陶芸家が作陶しており、焼物は瀬戸内市の人々の生活の中に息づいています。

（３）瀬戸内市に集う人と交流の歴史文化

本市は古代から山陽道や吉井川、牛窓港などにより陸上・水上交通が発達し、人・モノ・情報が集まる交通の要衝として栄えてきました。

長船町福岡は山陽道と吉井川による物流の場として栄え、福岡の市が開かれ賑わっていた様子が「一遍上人絵伝」に描かれています。現在でも福岡には商都の面影を感じるまち並みが残されています。

一方、牛窓地域は古代より良港として栄え、中世には「牛窓千軒」と呼ばれ、瀬戸内海の要衝として大きな経済力を持ちました。近世には、日本国と朝鮮国の友好の使者として来日した朝鮮通信使が４回も寄港しており、通信使が宿泊した御茶屋跡や朝鮮通信使関係資料、唐子踊等の民俗芸能など当時の人々の交流の痕跡が数多く残っています。

また港町として栄えた牛窓地域には、宮大工や船大工の技術を用いた牛窓や尻海のだんじりが残されており、現在も秋祭りには地区ごとに市内を練り歩いています。

邑久地域の瀬戸内海に面する邑久町尻海は、北前船などの船主が多く、廻船業で栄え、国内各地との交流により薩摩灯籠や欧風絵馬等がもたらされました。

また、海上交通を利用しての運搬が容易であったことから、瀬戸内海産の花崗岩は徳川期大坂城の石垣に使われ、現在でも当時の切り出し丁場を見ることができます。さらに市内には、前島の花崗岩を使用された墓碑などが残されています。

このように、交通の要衝であることから生まれた歴史文化が、当時の文化と人とのつながりを現代にも色濃く残しています。

（４）人の生活と信仰の歴史文化

本市では古くから人々の生活が営まれ、生活や信仰の中で様々な歴史文化が形成されてきました。

市内では旧石器時代の石器が黒島貝塚などから出土していることから、この時期には市内で人々が生活したことがうかがえます。また縄文時代の大橋貝塚や、弥生時代の門田貝塚など人々が生活してきた痕跡が確認されています。

古墳時代には大小多くの古墳が築かれ、中には花光寺山古墳や築山古墳、鹿歩山古墳といった 80m を超える前方後円墳があり、古墳の形態からヤマト政権とのつながりが指摘されています。

奈良時代には服部廃寺や須恵廃寺といった古代寺院が建設され、仏教の浸透が深かったことがうかがえます。

その後も弘法寺遍明院の五智如来坐像、弘法寺東壽院の阿弥陀如来立像、餘慶寺の薬師如来坐像といった、平安時代から鎌倉時代の仏教美術の特色をうかがえる仏像が残されています。また、仏像以外にも弘法寺踊供養や唐子踊、太刀踊といった伝統芸能も残されています。

（５）自然と感性が魅せる芸術の歴史文化

千町平野が広がる邑久地域は、その豊かな自然環境のもと、画家の竹久夢二や喜之助人形を完成させた竹田喜之助など多くの文化人を輩出してきました。とりわけ夢二の作品にみられる郷愁や優しさは、母や姉に囲まれて、自然豊かな本庄で過ごした日々が原点となっていると言われています。

また「日本のエーゲ海」と呼ばれ、風光明媚な土地として親しまれる牛窓地域では、洋画家の佐竹徳が、牛窓の気候が育んだオリーブを主題に、数々の風景画を生みだしました。

現在でも市内には竹久夢二や佐竹徳の作品が残され、展示されています。また竹田喜之助により制作された糸繰り人形は展示やアマチュア人形劇団の活動により、活用・継承されています。

（６）時の記憶が織りなす人がつなぐ土地の歴史文化

本市では、長い歴史の中でその土地に様々な歴史文化が形成されてきました。現在、市内ではそれらを残そうとする様々な活動がなされています。

まず中世には島村氏の居城である堀城や宇喜多氏の居城である砥石城などの城館遺跡が残されています。近世には岡山藩筆頭家老である伊木家の陣屋(お茶屋)が置かれていた虫明地区があり、当時の陣屋町の雰囲気を残しています。これらについては市民団体によって案内板の設置、パンフレット等の作成、ガイドの育成などが行われています。

また近代には、長島にハンセン病療養所として長島愛生園や邑久光明園が開設されました。現在は旧収容所などの歴史的関連施設や、所蔵史資料群を展示する愛生園歴史館によってハンセン病隔離政策の歴史を物語る重要な施設となっています。

このように、各地域に点在している城館やハンセン病療養所など、古くから人々が住み、暮らしてきたことの現れであり、今に伝えられてきた土地の記憶をつなぎ、当時の人々の営みや息遣いを今に伝えています。